

JA全農式トロ箱養液栽培システム「ういずOne」の取り組み

○育苗ハウスの未使用期間や遊休ハウスの有効活用、さらに安価に施設園芸をスタート

<ういずOneのコンセプト>

- 「ういずOne」は、発泡スチロール箱の栽培槽を用いた隔離床養液栽培で、他の栽培システムと比較して**設置・移動が容易**で**導入コストが安価**である。
- 育苗ハウスの未使用期間や遊休ハウスを有効活用**するための栽培システムとして開発した。
- 設置場所を選ばず、規模面積も自由、技術仕様は単純で、自主施工でコスト抑制可能、等の特徴がある。

<ういずOneの商品構成>

- 液肥混入機「ミニシステム」、灌水チューブ
- 栽培槽「プラスBOX」
- 園芸培土・パーライト
- 液肥（1液式・2液式）



- ネタフイムジャパン(株)の液肥混入機「ミニシステム」で灌水管理
- 液肥は1液式と2液式から選択



<取組状況と課題>

- 平成25年度より試験販売を開始し、令和2年3月末現在で1,280a(30都道府県)に導入されている。
- 「ういずOne」の導入・設置などを解説した取扱説明書と夏秋トマト栽培に関する栽培マニュアルの整備を行った。
- 灌水管理などは、地域・天候によって変動するため、地域ごとの**栽培フォロー体制の確立**が必要である。

<今後の取り組み>

- 見積り作成や設置作業をサポートする地域の園芸資材代行店（**ういずOneパートナーズ**）に対する研修会を実施する。
- ういずOne導入者が、栽培方法などについて意見交換し、技術向上するための場として**ういずOne研究会**を開催する。
- 各ブロック間の情報共有の活発化のために**ういずOneブロック別研究会**を開催する。

【役割分担】

	JA	県 域	全 国 域
役割分担	○導入生産者に対するフォロー	○県行政やういずOneパートナーズと連携	○研修会の開催、マニュアルの整備